

生産年齢人口が減っても 労働力人口が増えているのはなぜ？

経営環境研究部 研究員 神村 玲緒奈(かみむら れおな)

「生産年齢人口」と「労働力人口」の違い

日本の15～64歳の人口を示す「生産年齢人口」は近年減少を続けており、直近の20年間で1,000万人以上減少しています(資料1)。一方で、15歳以上の就業者と完全失業者の合計である「労働力人口」はほぼ横ばいで推移しており、足元5年ではむしろ増加を続けています。なぜ生産年齢人口は減少しているにも関わらず、労働力人口は増加しているのでしょうか。

労働力人口の増加要因は女性と高齢者の労働参加

これは、専業主婦などの女性や高齢者の労働参加が進んだことが大きく影響しています。

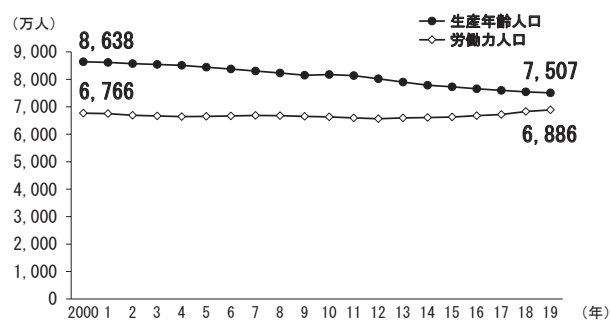
労働力人口の定義である「就業者と完全失業者の合計」とは、言い換えれば「実際に働いている者、または働きたいという意思を持ち、仕事があればすぐに就くことのできる者」ということとなります。

例えば、生産年齢人口に含まれない65歳以上の人であっても、実際に働いていたり、求職中で働く意思を持っていれば労働力人口に含まれます。そのため、今まで労働力人口に含まれていなかった人々の労働参加が進むと、生産年齢人口が減少しても労働力人口は増加することがあるのです。実際、ここ20年間で女性や高齢者の労働力人口は増加傾向にあり、特に高齢者の増加は顕著です(資料2)。

日本の高齢者の労働力率は主要国で最も高い水準

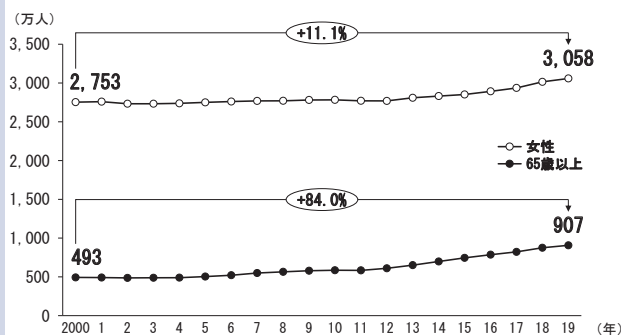
しかし、日本の高齢者の労働力率は既に主要国の中で最も高い水準であり、今後もこれまでのようなペースで高齢者の労働参加が進むことは難しいでしょう(資料3)。労働政策研究・研修機構は、高齢者や女性の労働参加が今後も続いた場合でも、労働力人口は2025年ごろから減少に転じると試算しています。将来的な労働人口の減少が避けられず、生産性向上等に真剣に取り組むことは喫緊の課題といえるでしょう。

資料1 日本の生産年齢人口と労働力人口の推移



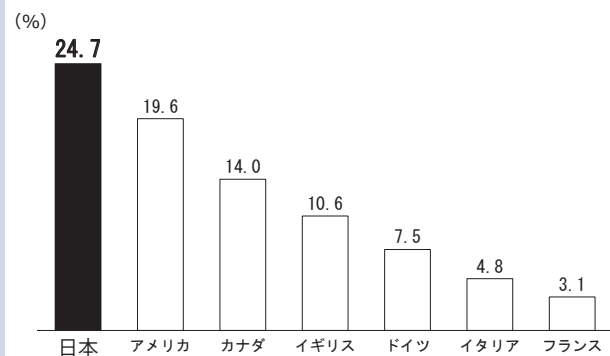
(出所)総務省統計局「日本の人口推計」「労働力調査」より第一生命経済研究所作成

資料2 女性・65歳以上の労働力人口の推移



(出所)総務省統計局「労働力調査」より第一生命経済研究所作成

資料3 G7各国の65歳以上人口の労働力率(2018年)



(注)65歳以上人口の労働力率=65歳以上の労働力人口/65歳以上人口

(出所)日本:総務省統計局「労働力調査」

OECD諸国: OECD Database (<https://stats.oecd.org/>)より第一生命経済研究所作成